

2024年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	☒ 一般入試 ☒ 外国人留学生特別入試 ☐ 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	専門試験（ 日本史学 ）
出題の意図	問題Ⅰは、全受験生が回答すべきものである。日本史学分野において研究を進めていくために、重要な学説上の知識および各受験者のこれまでの研鑽の蓄積を問う設問となっている。 問題Ⅱは、前近代（古代・中世・近世）をⅡ（A）とし、近現代をⅡ（B）とする選択問題である。受験者は、自身の専門とする時代に応じて選択して回答すべきものである。（A）、（B）いずれも、まず、それぞれの時代を専門として研究するために必要な史料読解力をはかる設問を置いている。次いで、史料読解から、その背後にある社会的背景や、それに関する研究史を問う設問を置いている。 これらを通じて、日本史学分野で研究を進めていくための適性・能力をはかることを意図している。

2024年度
北海道大学大学院文學院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 日本史学 全5枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 5枚、解答用紙 2枚を配付する。

【問題の構成】

- ① 全2問。問題Ⅰと問題Ⅱとから成る。
- ② 問題Ⅰは共通問題である。受験者は、全員、この問題に答えなさい。
- ③ 問題Ⅱは選択問題であり、**A**と**B**とから構成される。大学院入学後に古代・中世・近世を専攻する受験者は**A**を、近代・現代を専攻する受験者は**B**を選択し、問題に答えなさい。

【解答用紙の使用方法】

解答は、問題Ⅰと問題Ⅱとについて、それぞれ別々の解答用紙に記入すること。

問題Ⅰ

日本史学においては、しばしば「一国史的な見方」という言葉が批判を込めて用いられる。「一国史的な見方」について、具体的な例を挙げながら論じなさい。

問題Ⅱ **A** 次の【史料一】・【史料二】を読んで、下記の設問(問1～12)に答えなさい。なお、出題の都合上、一部、史料の表記を改め、省略したところがある。

【史料一】

一、石原左衛門五郎高家^{*1}与鎌倉住人慈心相論^①腹巻事
右、^②訴陳之趣、枝葉雖多、所詮、以件腹巻、令人置^③無尽錢質物之处、慈心抑留之由、高家雖申之、一倍已後、經訴訟之間、非沙汰之限矣者、依仰^{*2}下知如件、
弘安二年^{*3}十一月廿日 平判
散位藤原朝臣判
沙弥^{*4}判

(注) ^{*1} 石原左衛門五郎高家＝下級の武士。 ^{*2} 仰＝鎌倉將軍惟康親王の命令。

^{*3} 弘安二年＝西暦一二七九年。 ^{*4} 沙弥＝行願、俗名二階堂行綱。

問1 この相論における係争物件は「腹巻」(傍線部①)である。この「腹巻」とは何か、知るところを説明せよ。

問2 傍線部②「訴陳」につき、その(1)読みと(2)意味とをそれぞれ答えなさい。

問3 傍線部③「無尽錢質物」につき、(1)その読みを平仮名で書き記しなさい。また、(2)その内容につき知るところを答えなさい。

問4 この文書の、(1)様式は何か、また(2)機能は何か、それぞれ答えなさい。

問5 (1)この文書の一行目(二つ書きの行)を古文書学ではふつう何と呼び習わしているか、答えなさい。かつ、(2)その一行目を、旧仮名遣いで訓み下しなさい。

問6 この文書に示された結論の要点は、点線部に示されている。その内容について、どちらが勝訴したのかについても触れながら、簡略に説明しなさい。

【史料二】

肥前入道^{*5}。語云、④近日高麗人可來朝也、先々要脚被懸仰諸大名、被出之处、今時分諸大名⑤諸国役出錢不可叶之間、高麗人不可被入立京都、可被追返也、其間事、管領畠山^{*6}被存之間、⑥諸大名一揆して可被返高麗人也、可為如何様哉、意見密々談合清大外記^{*7}之由語之、唐船者、誠不可入日本之由、有先々御沙汰歟、於高麗人者、⑦明神功皇后御退治以後來服之三韓之隨一也、⑧高麗相通者、可叶神慮也、只不可入之由今更被仰者、可為後年煩歟、⑨如何して可被返之や、所詮上古往昔へ來朝之貢賦也、近來者為商売所入來也、然者牒狀之文章違上古歟、古今之牒狀收集見合天、就文章之咎可被返高麗人歟之由、外史^{*8}意見歟、

〔康富記〕嘉吉三年(一四四三)五月六日条

(注) ^{*5} 肥前入道＝幕府政所奉行人飯尾為種。 ^{*6} 管領畠山＝畠山徳本、俗名持国。

^{*7} 清大外記＝清原業忠。 ^{*8} 外史＝清原業忠。

問7 傍線部④につき、(1)「高麗人」とは当時のある王朝から来た人間を指す。その王朝名を答えなさい。(2)この日記の別の箇所によると、この「高麗人」らは、来日の数年前に亡くなった室町殿を「弔い奉る」ために「來朝」したという。その室町殿とは誰か、答えなさい。また、(3)その室町殿はなぜ死去したのか、知るところを述べなさい。

問8 傍線部⑤「諸国役出錢」につき、(1)「国役」・「出錢」それぞれの一般的な意味を答えなさい。また、(2)これを何の用途に宛てようとしていたのか、史料中から適切な語句を抜き出して答えなさい。そして、(3)その具体的な中味につき、推測して説明しなさい。

問9 傍線部⑥「諸大名一揆」とは、(1)どんな手続きを指すのか、推測して答えなさい。また、(2)彼ら「諸大名」はなぜ「一揆」したのか、概略を説明しなさい。

問10 傍線部⑦につき、「神功皇后御退治以後來服」とはどういうことか。知るところを概略解説しなさい。

問11 傍線部⑧を、(1)旧仮名遣いで訓み下し、(2)現代語訳しなさい。

問12 傍線部⑨に関連して、清原業忠は具体的にどうやって「高麗人」を「返」(「追返」)すべきだと言っているのか。彼の「意見」を具体的に説明しなさい。

問題Ⅱ **B** 次の【史料一】・【史料二】を読んで、下記の設問(問1～問5)に答えなさい。
なお、出題の都合上、史料の表記を改め、省略したところがある。

【史料一】

運河へ、西洋ニテ「カナール」ト云、掘割ノ渠河ヲ謂ナリ、支那ノ運河、埃及「シエウエス」ノ運河ノ如キハ、世ヲ驚カセル大工業ナレトモ、一般ノ運河ハ、①カナル大業ニハアラサルナリ、(中略)河側ノ兩岸ニ曳船ノ道ヲ設ケ馬ヲ往來セシム、或ハ橋下ヘ下リエキ時ニハ岸上ヘ上リユク、我澱河ノ引船ト同シ、西洋ニテ力挽ノコトハ、馬ヲ用テ、人ヲ用フルコトナシ、我澱河挽舟ノ図ノ如キ、②今ヤ差ヘキヲ覺ツナリ、(中略)運送ノ便利ハ、我邦ノ如キ環海ノ邦ハ、広陸少キニヨリ、其用意甚タ薄ク、近來蒸氣力ノ舟車開ケルニヨリ、陸ニハ鐵路、海ニハ汽船、是ヨリ外ニ運送ノ便ナキカ如クニ思フ人モ多ケレトモ、③鐵道ハ費用莫大ニテ、其利ハ只迅速ニアリ、重荷ヲ遠送スルニ、尽ク利アルニハ非ス、猶蒸氣船ノ盛ニ行ハル、モ、風帆船モ同ク数ヲ増カ如シ、殊ニ農業ノ産物ハ、重サノ割ニハ、其価甚タ少キエ務メテ費用少クシテ運搬スルヲ良トス、故ニ運河漕舟ニ適當セリ、④米國ノ鐵利ニ富ムモ、運河ハ鐵路ト相並ンテ、各其利用ヲナス、況ヤ鐵利ノ興ラサル國ヲヤ、大陸地方ハ、河道甚タ少ク、数十里ニ僅一河アレトモ、蒸氣機器ニハ、利害互ニアリテ、反テ水力ニ及ハサル所アリ、故ニ米國各地方、流水ノ資アレハ、運河ヲ設ケ、皆實地ノ計算ヨリ出ル便法ナリ、

問1 傍線部①は、史料中の何を指しているか、答えなさい。

問2 傍線部②について、(ア)すべてひらがなで書きなさい。(イ)著者がこのように思ったのはなぜか、理由を説明しなさい。

問3 傍線部③を、すべて現代語に直しなさい。

問4 傍線部④を、すべて現代語に直しなさい。

問5 この史料の書き手が主張していることを、文明開化という観点から説明しなさい。

【史料二】

昭和十一年二月二十六日

木戸内大臣秘書官長へ午前五時二十分小野秘書官ヨリ、内大臣へ只今私邸ニ於テ約一中隊ノ兵ニ襲撃セラレタリトノ電話ニ接シ、午前六時ニ⑤参内ス。

(中略)

一、陸軍大臣ニ対シ「今回ノコトハ精神ノ如何ヲ問ハズ甚ダ不本意ナリ。国体ノ精華ヲ傷クルモノト認ム」トノ意味ノ御言葉アリシ由ナリ。然ルニ陸軍大臣始メ軍事参議官等ノ本件ニ対スル善後処置ハ甚ダ不明瞭ニシテ、先ヅ軍事参議官ニ於テ申合セ手分ケラシテ反乱部隊ヲ慰撫スルコトトス。其ノ条件ハ、⑥国体ノ顯現ト云フ諸君ノ主張ハ自分等モ同感ナレバ之ガ達成ニハ努力ス、(中略)故ニ兵ヲ収メテ原隊ニ復歸スベシト云フニアリ。又一面、時局收拾ノ為メ暫定内閣ノ樹立ヲ考ヘ居ルモノノ如ク、「此際中間暫定内閣ヲ成立セシメテハ如何」トノ意見ヲ陸軍大臣ノ意見トシテ侍従武官長ヲ通ジテ上聞ニ達シタルモノノ如シ。(中略) ⑦陛下ノ本件ニ対スル聖慮ハ極メテ明確ナルモノナルヲ以テ、陸相ノ意見上聞ニ達スルヤ、侍従次長ヲ召サセテ、

- 1、現在ノ内閣ヲシテ既ニ時局ノ收拾ヲ命ジ置キタリ。
- 2、中間内閣ノ如キハ絶対ニ反対ナリ。

右ノ二点ヲ侍従武官長ニ仰下サレ、陸軍大臣ニ伝達セシメ可然哉ノ御下問アリ。⑧
⑨ノ点ハ、陛下ノ御沙汰トシテハ少ク適當ナラサルノ感アルヲ以テ、1ノミヲ伝達セシメラレ可然旨奉答。午後九時頃、武官長ニ御沙汰アリタリ。

問6 傍線部⑤の読みをひらがなで書きなさい。また、その意味を答えなさい。

問7 傍線部⑥について、これを主張している人々の論理を念頭において説明しなさい。

問8 傍線部⑦について、その内容を簡潔に説明しなさい。

問9 傍線部⑧について、このように判断された理由は何か、説明しなさい。